

セカンドフラッシュ ● 水口奈津子

聖五月の空の広さよ泳がない真鯉緋鯉のねむる闇あり

プラタナスの並木をぬけるシスレーの筆触のような幹を叩いて

明恵上人の右耳ゴツホの左耳ハクモクレンは散りはじめたり

とうめいな立方体に満つる声まひるみどりの受話器ははずれ

湧き水のそのみ白く盛りあがり女子学生のおしゅべりつづく

何もなきひと日のおわりに肉を焼く朝倉山椒をピリリと利かせ

ばつぽんとジャムの蓋あき飛び出せる朝のニュースは開戦を告ぐ

1日コンロにお湯は煮えたぎる青き炎を見せぬ明け暮れ

〈妻〉と〈麦〉読み違えたりああ麦になりたし未明の雨に洗われ

戦地なら銃の重さか七キ口の米をかかえてよろけておりぬ

使い捨て手袋しはすつぽりと抜け落ちわれは過去を失う

電話越しの声はしずかに症状をたずねたり木曜に予約を入れる

求めらるることばさがして応えこし歲月みずの淡さをもてり

蓋をとりに煮つめておりぬめんどうな記憶に琥珀の艶生れるまで

耳鳴りの音たずねられさわさわと竹林を渡る風と答える

しまい湯に首まで浸かれれば出る声をあの日母の声と聴きおり

さし入れる匙の軽さにはつ夏のひかりをからめ蜜掬いたり

エビデンスなしと言いたる友の声雑踏の中に浮かぶを消しぬ

ダーズリンセカンドフラッシュ梅雨入りの体内時計を整えてゆく

あおむけのわが顔めがけ電灯の紐は垂れおりまわりつづける



受賞の言葉——水口奈津子

交通の不便な地方在住のため、歌会・読書会などのイベントに参加しにくく残念に思うことがありました。しかし、コロナ感染症の影響により、リモートでの会が普及しました。以前、幸綱先生の紹介された大岡信の『うたげと孤心』。画面越しであれ Zoom 歌会は私にとってはうたげでした。

歌を作り、構成を考えながら並べ替える作業は楽しいです。選考賞に力をいただきました。励ましてくださった方々、念願の受賞が叶い感謝の気持ちでいっぱいです。これからもよろしくお願ひいたします。

佐佐木幸綱先生、選考委員の皆さま、心より御礼申し上げます。